

農地土壌へ果樹剪定枝を 活用したバイオ炭の投入

報告

大阪府南河内農と緑の総合事務所 農の普及課

梅澤 類

吉川幸一郎氏紹介

- 就農：令和2年度 新規就農
大阪府羽曳野市碓井（うすい）地区
- 主な作目
いちじく 25a（未成園5a）
いも類（さつまいも、さといも、じゃがいも） 50a
野菜類（おくら、にんにく等） 25a



背景

- 羽曳野市駒ヶ谷地区は全国有数のぶどう産地。
- 羽曳野市誉田（こんだ）碓井地区は府内最大のいちじくの産地。
（駒ヶ谷地区と碓井地区は石川を挟んで隣接）
- いちじく園を新規開園時際には、市内のぶどう農家から剪定枝チップをもらって、マルチ資材として活用した。

取組のきっかけ

- いちじくは大量の剪定枝が発生する
10aあたり剪定枝：直径2～3cm×1.2m×2,500本



←剪定前

剪定後→



- そのまま施用すると病害が拡大する恐れがある。
- バイオ炭を施用することで、さつまいも増収効果を期待

取組内容

- 令和3年 炭化処理機（1台約10万円）購入
- 炭化処理後、冷却に時間がかかる。
10a分の剪定枝の処理に、約5日
→作業負担が大きい。
- 令和4年に大型の処理機を1台レンタル→処理速度向上
昨年度は、近隣のいちじく剪定枝も含め1ha近くの剪定枝を処理した。



取組状況

- バイオ炭は、さつまいもを作付けする畑（10a）に施用する。
- さつまいも畑は毎年場所を変えるので、すべての畑へ施用が終わっていない。
- もともと川砂混じりの水はけがよい土壌である。

